

I 自己評価

<p>1 学校教育目標</p>	<p>1 教育目標 生徒一人一人を大切に、自ら学び自ら考える力を育てるとともに、心豊かな人間性を育成し、心身ともに健康で社会に貢献できる人間を育てる。</p> <p>2 教育方針 (1)自らの目標を達成するための確かな学力の定着と主体的な学習態度の育成。 (2)基本的な生活習慣を培い、礼儀や規律を重視した指導の徹底。 (3)「開かれた学校づくり」を推進し、家庭や地域社会から信頼され支持される学校づくり。</p>		
<p>2 スクール・ポリシー</p>	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自ら挨拶する明誠高生」 自他の生命と人格を尊重し、多様な個人と文化を理解することのできる、思いやりをもってコミュニケーションを行うことのできる生徒 ・「積極的に学ぶ明誠高生」 様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓くために、自分で目標を設定し、なりたい自分の姿を思い描きながら、生涯を通して学び続けることのできる生徒 ・「ふるさと、海津に貢献する明誠高生」 地域に唯一の高校で学んでいることを自覚しながら、地球的規模の視点から、地域の持続可能性に対する理解を深め、地域の人々と連携・協働して社会貢献できる生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科・ビジネス情報科・生活デザイン科の3つの学科がある学校の特色を生かしたふるさと教育の推進 ・探究的な学習過程を重視し、主体的・対話的な深い学びの機会を充実 ・ICT活用授業、習熟度別授業や少人数制授業により基礎学力の定着を図り、多様な進路希望を実現 ・商業に関する専門的な知識と技術を身に付けさせて資格取得を図り、多様化するビジネス社会に対応できる能力と態度の育成 ・地域に根差した福祉活動や交流活動、体験的な学習、資格取得や各種コンクールへの挑戦を通じた、生活における様々な課題解決力と職業観・倫理観の育成 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活を送り、ルールを守り、誠実な態度で高校生活を前向きに送り、自分を成長させようとする意志を持った生徒 ・学習や学校内外の諸活動において、自分の可能性を信じて実践を発展させたり、新たにチャレンジしたりしようとする生徒 ・傾聴する姿勢、自分の考えを伝える力・様々な見方や論理的な考え方を身に付けようとする生徒 ・地域とのつながりを大切にし、地域の担い手となって、よりよい社会を築いていこうとする思いを持った生徒

<p>3 評価する領域・分野</p>	<p>◇進路指導</p>
<p>4 現状の分析</p>	<p>◇外部評価アンケート（令和4年度実施のもの）実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全生徒および保護者にメールを送付しWEBで回答した。 ・保護者、学校運営協議会委員では159人(46%)、生徒は357人(103%)が回答。生徒の回答数が在籍者数を超過。WEB回答のため、回答者の特定ができず、超過の原因は不明である。 ・多くの質問項目で昨年度に比べて今年度はA+B（あてはまる）が大幅に増加し、C+D（あてはまらない）が減少した。 <p>◇アンケートの結果</p> <p>【生徒】 ○「生徒に適した進路情報を示し」「将来の希望にそった具体的な進路指導が行われている」という2項目において、前年度調査より向上している。（両項目ともに10ポイント以上）</p> <p>【保護者】 ○「進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている」「生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしている」という2項目において、前年度調査より大きく向上している。（前者項目において26ポイント）</p>
<p>5 学校の抱える課題</p>	<p>◇進路決定後の指導。（気の緩みが出る中、一部企業や大学等は入社・入学前課題が出されるが、専門学校や企業全般は課題がない。）</p> <p>◇補習内容と外部模試結果の差をどう詰めていくかが例年の課題である。と同時に国公立大学や一般選抜で合格できる生徒の学力向上。</p>

6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1) キャリア教育の全体計画に基づき「進路意識を高める事業」「学力を高める事業」「進路実現を支援する事業」を通して生徒のキャリア発達を全校体制で計画的・継続的に支援する。</p> <p>(2) 進路指導部を中心に大学入試改革に関する情報収集に努める。</p> <p>(3) 学年会と連携し、進路サポーター制度を円滑に運用すると共に各種ガイダンスが効果的に機能するよう図る。</p> <p>(4) 「進路だより」「羅針盤」及びホームページを活用して情報を発信する。</p>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 基礎学力の定着に向けた学習改善による学力の向上。ICT機器の活用及びアクティブラーニングの授業手法を取り入れた授業改善の取組。自ら課題を解決する力の育成。明誠スタートライン・朝読書の充実。</p> <p>(2) キャリア教育の充実（進路意識の明確化、進路サポーター制度の充実）及び各教科との連携、羅針盤（教師用通信）の発行。</p> <p>(3) 特色と魅力ある学科運営、専門教育の充実（ビジネス情報科のIT関係検定試験の取組、生活デザイン科の三類型教育課程の実践、課題研究の推進、家庭クラブ活動の充実）。</p>	<p>(1) 研究授業・公開授業の実施、授業研究会・実践発表会の実施、生徒による授業評価(年2回)の実施、ICTを活用した授業改善、言語運用能力の育成及び基礎学力の定着を意図した授業研究と指導計画の作成、考査問題の評価、家庭学習時間の調査。</p> <p>(1) 進路目標の明確化とその達成度の把握、「進路の手引き」の有効活用、地元企業見学の実施、補習授業の充実と模擬試験結果の分析。</p> <p>(3) 検定試験への挑戦、学習成果発表会の開催、こども園実習、介護職員初任者研修、認知症カフェ高齢者交流、家庭科関係コンクールへの挑戦、企業との共同開発、まちゼミ（商工会）の実施。</p>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> 「進路サポーター制度」の実施 『進路の手引き』ワークシートの確認 補習の強化、模擬試験分析、進路実績 検定試験や各種コンクールの出品実績 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の共通理解による組織的な進路指導 ワークシートの有効利用 学力状況、試験結果、進路実績 検定合格率、コンクール結果 	<p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
12 成果 課題	<p>○5、6月に地域創生キャリアプランナーによる履歴書指導及び就職希望者個人面談の成果もあり、的確な進路選択と内定を大半の生徒が獲得した。</p> <p>○本年度は、海津消防、県職員、市役所、自衛官といった公務員説明会を6月早々に実施し、学科試験対策も進路指導部で早くから取り組ませた結果、合格を果たした。</p> <p>○「進路サポーター制度」を活用し、3年生の進路選択から進路実現まで丁寧に組織的支援することができた。</p> <p>▲進路決定者に気の緩みが出る。一部企業や大学等は入社・入学前課題が出されるが、専門学校や企業全般は課題がない。</p> <p>▲国公立大学や一般選抜で合格できる進学クラス生徒の学力向上を目指して、補習の内容や進め方を改善する必要がある。（授業や補習でのリクルート「スタディサプリ」の有効活用など、外部模試の全国偏差値を目標とする）</p>	
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路決定後の指導として、進路指導部と学年とが連携し、個々の生徒に応じた課題やシート（ポートフォリオ）面談等の対策を講じるなど工夫が必要である。 就職試験における「SPI」の点数は確実に向上しており、点数不足による不合格者は著しく減少した。また、就職模擬試験を公務員希望者にも受験させるなど、学科試験対策も進路指導部で早くから取り組ませた結果、成果が上がった。今後さらに就職（公務員）試験対策を充実していきたい。 進学クラス生徒対応スタディサプリは、進路指導部が教科担任の先生に宿題配信を依頼して、生徒の実力に応じた単元内容に取り組ませていることについては定着してきたが、生徒が自主的に自分の課題を見つけ取り組むよう、授業等での活用方法を工夫していく。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月17日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒数が少ないかもしれないが、それによる強みもある。一人一人の学力に合わせた授業ができ、学力の向上につながり、進学や就職の実績につながったと思われる。 進路実現については、教員の努力だけでは難しい。生徒本人の努力、家庭での協力、教員の指導があってこそ成果が挙がるが、本校の場合は、環境要因が大きく、教員への依存度も高くなる。 個々の生徒に沿った一人一教師という体制（進路サポーター）が成果につながっている。 検定・模擬試験・コンクールなどの結果について具体的なデータを示してほしい。 進路指導の成果は、個々の生徒の希望に沿った進路実現であるかどうかで評価されるとよい。アンケート結果からは、対応がうまく行っているとわかる。このことが保護者からの信頼となり、地域の評判につながり、生徒数の確保につながっていく。
